# 聴覚障害者の日常を映画に

映画「珈琲とエンピツ」を紹介する今村彩子さん＝豊橋市障害者福祉会館で

## 名古屋の今村さん製作

耳の不自由なサーフショップ男性経営者の日常を追ったドキュメンタリー映画「珈琲（コーヒー）とエンピツ」を、自身も聴覚に障害のある名古屋市緑区の映像作家今村彩子さん(32)が製作した。12月３～16日、豊橋市藤沢町のユナイテッドシネマ豊橋での上映が決まり「耳が聞こえる人もそうでない人も、互いに心を開いて対話する大切さを感じてもらえたら」と願っている。（池内琢）

## 「心開いて対話する大切さ感じて」

今村さんは豊橋市の豊橋聾（ろう）学校高等部を卒業後、愛知教育大に進学。子どものころに、宇宙人と子どもの触れ合いを描いた映画「E.T.」に感動したことが忘れられず、米国の大学に留学し、映画の手法と手話文化などを学んだ。二十歳の時から主に手話や筆談で対話する「ろう者」の生活に焦点を当てたドキュメンタリー作品の撮影を始め、十二年間で二十本を撮った。

### 来月3日から豊橋で上映

「珈琲とエンピツ」製作は二〇〇九年八月、静岡県湖西市の店舗でサーフィン用品やハワイの雑貨を販売しているろう者、太田辰郎さん(四九)＝浜松市西区＝と知り合ったのがきっかけ。太田さんが、聴覚障害者と知って困惑する客にコーヒーを入れてリラックスしてもらい、紙と鉛筆を使った筆談で対話する姿に接した。

聴覚障害者としての自身の経験もあり「健聴者はろう者との筆談を嫌がるのではないか」とずっと思っていたが、笑顔の太田さんと若いサーファーらとの自然なやりとりを見て、その先入観がすっかりなくなった。

感動のまま、撮影をすぐに始め、名古屋の自宅から毎月二、三回、太田さんの店に通い詰め、今夏、六十七分間の作品に仕上げた。誰もが観賞できる映画館での公開は初という。

前売り券は大人千円。子ども（三歳から高校生）八百円。問豊橋市障害者福祉会館＝電０５３２（５３）３１５３